

あれこれ通信

しづやとみこの議会報告

No. 23

1999年3月

しづやとみこの会 埼玉県比企郡嵐山町平沢254-64

TEL 0493 -62-7997

FAX 0493-63-1727

公共事業、安ければよいというものではないはず！

新しい図書館は、使いやすく親しみあるものを。

本年10月に、駅東口にオープンする予定の(仮称)知識の森図書館の建設は、3度も匿名(談合があったことをしることのできる人)による談合情報の知らせの文章が議員の家に送付され、嵐山町

によって入札の直前に談合疑惑の調査がおこなわれました。事実は嵐山町役場ではわかりませんでした。議会や町には捜査権はありません。談合情報を握っている人は議

員に談合情報を流すと同時に警察や公正取引委員会に談合の事実を、実名で告発するべきだろうと思います。結局、銭高建設が落札しました。建設価格は、最初に嵐山町が見積もっていたよりも、ずーっと安価な3億六千万円になりました。そのため、嵐山町では、当初の予算額では、おずかしいと計画に組みこめていなかったものを、改めて加え、総額4億2

千万円になりました。書庫を電動式の書架にしたり、視聴覚室のスクリーンを少し大きめのものにしたり、視聴覚室の階段状のいすを固定式にしました。工事変更を二度行いました。公共事業は、でき

るだけ安上がりにという考え方があります。しかし、私は予算の範囲内で、よりよいものを模索し、設計変更するのは、行政として当然の姿勢だと考えます。文化の質を高めていく生涯学



習の基盤になる図書館は可能な限り充実させるべきです。図書館は、本やビデオも、一人一人の必要性に応じることができると、雰囲気も、親しみやすいものにしてほしいのです。図書館は、町長室や議長室とはちがいます。安ければよいという発想で公共事業を行うのではなく、住民の求めているものはなにか、予算の使い方を選択していくセンスが必要です。